

平成 27 年 9 月 1 日

**モバイル端末で、音声と映像のリアルタイム同報通信を実現。
IP-PTT システム EveryTalk を 9 月から販売開始。**

自動認識システム開発のアイニックス株式会社（東京都目黒区大橋 1-6-2 電話 03-5728-7500 代表取締役 平本純也）は、韓国 サイバーテルブリッジ社（CyberTel Bridge Co.,Ltd.）と代理店契約を締結し、IP-PTT システム “EveryTalk” を 9 月から販売開始します。EveryTalk は、モバイル端末の WiFi や LTE を使用して音声と映像のソフトウェアベースのマルチキャストによる同報通信を行うシステムで、音声なら 2 万人、映像なら 1 千人まで 1 サーバでリアルタイム同報通信が可能です。IP-PTT（プッシュトゥーク）とは、無線機で使用されるボタンを押して送話する仕組みをインターネットで実現したことからこのように呼んでいます。従来の IP 無線機のように専用の通信機が不要で、Android 搭載のモバイル機器にアプリをインストールして使用できます。

サイバーテルブリッジ社は、2000 年に韓国ソウルにインターネット通信ソフトウェアの開発会社として設立され、2008 年に IP-PTT システム EveryTalk を開発しました。そして、韓国空軍、韓国海軍、韓国鉄道、韓国行政安全省、檀国大学病院等で多くの実績を積み、今年から積極的な海外展開を開始しました。サイバーテルブリッジ社は、IP-PTT のトータルソリューションを提供する会社で、ソフトウェア開発ばかりでなく、IP-PTT 端末の開発、IP-PTT サービスの提供も行っています。

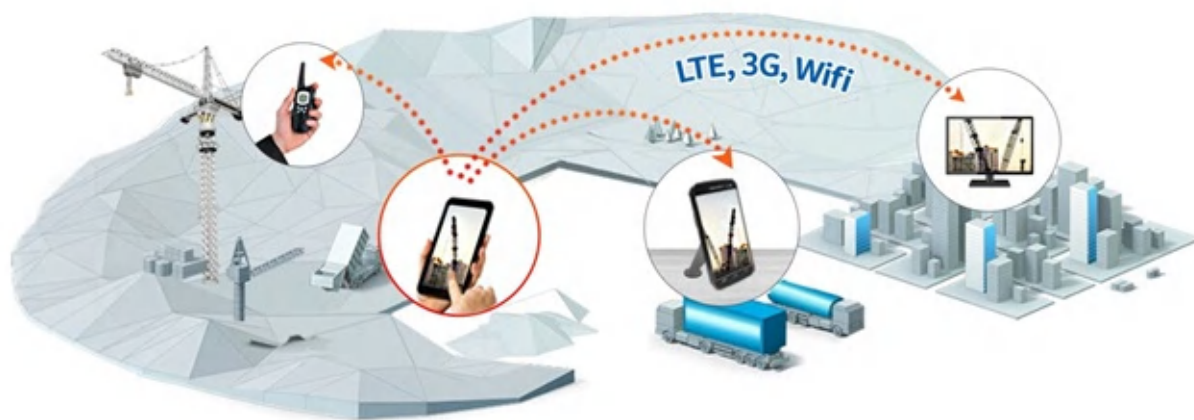
従来の無線システムは、電波の到達エリアのみの利用に制限され、周波数の異なる相手と通話することができません。したがって、災害時に、自治体無線、警察無線、消防無線、防衛無線などが、迅速に連携を取ることができません。米国や韓国では、この問題を重視し、LTE 通信ネットワークを使用した IP-PTT システムの導入に積極的です。なぜなら、IP アドレスで自由にグループを構成でき、1:1、1:n、1:グループの通信が、地理的制限なく可能になるからです。しかも、操作は非常に簡単で、送信先のユーザやグループを選択し、PTT ボタンを押すだけで送信ができます。

また、EveryTalk は、音声通信ばかりでなく、映像通信やショートメッセージ通信（SMS/MMS）ができることが特長です。映像通信は、災害現場の連絡、救急医療の処置指導、工事現場の状況説明などに大変有効です。音声通信や映像通信は、モバイル端末の使用の有無に関わりなく強制的に接続し、通信を開始します。これに対し、メッセージ通信は、ユーザの意思で確認できますので、緊急度によって使い分けることができます。

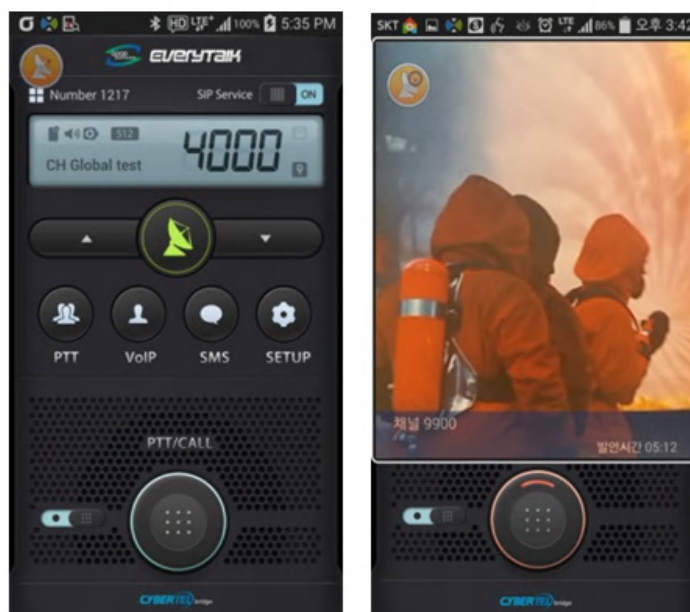
Everytalk は、オプション機能として、最大 60 人まで双方向で会話ができる会議サーバを用意しています。また、社内交換機 PBX と接続して内線電話と通話できるコールブリッジサーバも用意しています。更に、ユーザ管理を行う指令センターサーバや、通信内容を自動的に記録するレコーディングサーバも用意していますので、大規模で統合的な通信管理が可能です。

店舗や物流では、多くの業務用モバイル端末が使用されています。また、店舗では連絡用にトランシーバが使用され、トラックは業務用無線を搭載しています。そこで、この業務用モバイル端末に **EveryTalk** を搭載することにより、トランシーバや業務用無線の機能を統合することができます。アイニックスは、先ず初めに得意とする店舗や物流業界にこのシステムを提案し、続いて公共安全、交通、イベントなどに展開する計画です。

EveryTalk の基本ライセンスは、PTT サーバライセンスとモバイル端末のクライアントライセンスで構成されています。また、オプション機能として、コールブリッジサーバ、会議サーバ、指令センターサーバ、レコーディングサーバのサーバライセンスが用意されています。



EveryTalk のイメージ



EveryTalk の操作画面